

生涯学習だより

周教育課 生涯学習係
平成33年7月号

富士山噴火と松田町

10月8日の町民大学では、富士山噴火をテーマに、温泉地学研究所の萬年一剛さんを講師にお招きしてお話を伺いました。

過去7000年で
145回噴火

過去7千年前で富士山は、145回噴火したといわれています。竹取物語や更級日記にも活発な様子が記されています。

しかし、噴火をしたとしても、溶岩流が松田町まで到達する確率はかなり低いので、過剰に心配する必要はありません。

溶岩流より恐ろしい降灰

噴火すると大量の火山灰が降ります。降灰は溶岩流よりも、溶岩流が松田町まで到達する確率はかなり低いので、過剰に心配する必要はありません。

一番の心配は噴火前の混乱

降灰より心配なのは、噴火の兆候や予測の段階での人々の混乱です。買い占めによる品不足や避難行動による大渋滞などが起る懸念があります。

フェーズフリー（備えない防災）

まずは、自分で考えて、日頃から「電気だけに頼らない」「使用しながらの食料備蓄」「車にはいつもガソリンを半分以上」など、今できることを備えておくことが大切でしょう。

参加者の感想

「過度の心配はしないことに決めました」「噴火を怖れるだけでなく、何をすべきか考えさせられました」「正しく恐れて、正しく準備したいと思います」



めず、高台に上つて井戸を掘つて生活した「横井戸遺跡」などの記録も残っています。

噴火が起きれば、交通が遮断され、物流が止まってしまいます。大量の火山灰の除去には膨大な時間がかかります。

余話として（二）二人の松田氏①
かつて関東戦国時代の幕開けは「延徳二年（1491）の北条早雲による伊豆堀越公方府の滅亡」とされてきました。まさしく戦国の梶雄早雲による下剋上がその根拠だつたのでしょうかね。ところが近年は「この事件は京都の明応の政変（1493年）と関連し、將軍足利義澄の命を受けて早雲が行つた」という考え方が通説になっています。

この様な松田氏の歴史を先学の研究成果を踏まえながら独自の視点で叙述したものが『松田の武士松田氏を知るためには』（令和二年松田町歴史講座付録冊子。『扣之帳』72～75号所収）です。著者は当町文化財保護委員の遠藤孝徳さんです。また今年、「松田城／古文書・出土遺物から迫る」と題した展示や講演で松田城の新たな姿を示してくれたのが同じく文化財保護委員の桐生海正さんでした。

田城の研究に

田城の研究にも新たな光が当たりつつあります。

松田氏・松

田城の研究に

も新たな光が

当たりつつあ

ります。

「松田城」の展示



松田
文化財探訪

統・町指定文化財とその周辺 その33

文化財保護委員 鈴木 一行
すずき かずゆき

かずゆき

かずゆき